

試験番号：II J-07-0027 (3)
受付日：平成19年8月1日

木造接合金物の強度試験 報告書

[釘止め短冊金物330／引張試験]

試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

平成20年1月25日

財団法人 日本建築総合試験所
試験研究センター
センター長 工学博士 井上 豊



技術管理者

構造要素試験室長

完山



試験名称	木造接合金物の強度試験 〔釘止め短冊金物330／引張試験〕		
依頼者 (所在地)	株式会社 ダイドーハント (大阪府大阪市中央区西心齋橋1丁目5番5号)		
試験実施日	平成19年8月21日		
試験体	形状寸法	図-1.1	
	接合金物 および 接合具	商品名 : 釘止め短冊金物330 接合金物 ; 釘止め短冊金物330 【 ZAM (MSM-CC-HC) 】 接合具 ; 10-ZS-50 (スクリューくぎ) 【Zマーク表示金物】 形状寸法 : 図-1.2 木材の樹種 ; すぎ製材 (断面寸法; 105×105mm、無等級材)	
	試験体数	7体 (うち1体は予備試験体)	
	備考	1. 試験体構成部材の仕様を表-1に示す。 2. 試験体の加工および組立は依頼者により行われた。 3. 上記の図表および仕様は依頼者提出資料による。	
試験方法	準拠規準	「木造軸組工法住宅の許容応力度設計 (平成14年6月)、2章 木造軸組構法住宅の各部要素の試験方法と評価方法、pp. 131～153」((財)日本住宅・木材技術センター) に準じて行った。	
	試験装置	図-2	
	載荷方法	予備載荷用試験体は単調引張載荷、本試験は一方向の繰返し引張載荷とした。繰返し載荷は、予備試験で得られた降伏変位 δy の1/2, 1, 2, 4, 6, 8, 12, 16倍の順で各1回行った。	
	試験体の設置方法	試験体は、鋼製土台に設置された固定治具にM16ボルト4本を用いて設置した。	
	測定機器	荷重値の検出には100kNロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定には、図-2に示す位置に設置した変位計を用いた。	
試験結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試験結果の一覧----- 表-2 ・ P-δ 曲線の包絡線 (試験体相互の比較) ----- 図-3 上記試験結果中に示した記号の定義を [付録1] に示す。		
	短期基準接合耐力 (Pt) : 8.6 kN (金物1個あたりの耐力) 短期基準接合耐力の算定方法を [付録2] に示す。		
構造部 構造要素試験室 試験責任者 平井 義行 試験担当者 今西 達也			